

SOKENDAI

(The Graduate University for Advanced Studies)

School of Cultural and Social Studies

Department of Regional Studies

Department of Comparative Studies

Overview '21

総合研究大学院大学 文化科学研究科

地域文化学専攻

比較文化学専攻

概要 '21



S O K E N D A I 国立大学法人
総合研究大学院大学
THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology





国立民族学博物館（みんぱく）は、博物館機能と博士課程の大学院教育機能を備えた文化人類学・民族学の研究センターとして、世界で唯一の存在です。みんぱくは、世界各地から集めた34万5千点を超える民族学標本資料を収蔵していますが、このコレクションは、20世紀後半以降に築かれた民族学関係の資料としては世界最大の規模をもちます。また、施設の規模のうえで、みんぱくは、世界最大の民族学博物館となっています。

みんぱくには、現在、52人の研究者がいますが、それぞれが世界各地でフィールドワークに従事し、人類の営みの多様性と共通性、そして地球規模でのつながりの中での社会の動態について調査研究を続けています。

人類の文明は、今、大きな転換点を迎えているように思います。これまでの、中心とされてきた側が周縁と規定されてきた側を一方的にまなざし、支配するという力関係が変質し、従来、それぞれ中心、周縁とされてきた人間集団の間に、創造的なものも破壊的なものも含めて、双方向的な接触と交流・交錯が至る所で起こるようになってきています。

そして、新型コロナウイルス感染症がほぼ同時に地球全体に広がるという事態に至って、私たちは、今、人類がこれまで経験したことのない局面にいやおうなく立ち会うことになりました。その状況の中で、私たちが現在の生活を送るうえで当たり前と思って来た慣行やルール、とりわけ人類が近代に入って作り上げてきたあらゆる制度や規範の成り立ちやありようが洗い出され、その意義と存在理由が改めて問われることになっています。同時に、社会に潜在していた差別意識が浮かび上がり、世界の新たな分断の状況も生まれてきています。

それだけに、異なる文化を尊重しつつ、言語や文化の違いを超えてともに生きる世界の構築をめざす文化人類学の知が、これまでになく求められているように思われます。

みんぱくには、総合研究大学院大学の地域文化学専攻と比較文化学専攻が設置されています。この両専攻に所属する大学院生は、文化人類学をはじめ言語学、宗教学、生態学、考古学、芸術学、民族音楽学そして博物館学など、広範な研究領域を専門とする個性ゆたかな教授陣の指導を受けられるのみならず、上で述べた世界に冠たる資料の蓄積に身近に接することができます。みなさんが、これらの学術資源を縦横に使いこなし、新たな研究の領野を切り開いて、それぞれの分野のパイオニアとしてはばたいて行かれることを期待しています。

国立民族学博物館長 吉田 憲司

充実した教授陣

学生数をうわまわる教授陣は、学生一人一人の資質やニーズに合わせた、きめの細かい指導が可能です。また両専攻の教員は各分野の第一線で活躍する研究者であるため、最新の研究動向に基づいた指導をおこなうことができます。

豊富な情報源

日本における文化人類学・民族学関連の最大の資料類が揃っています。

また、国立民族学博物館が主催する数多くの共同研究会・シンポジウムへの参加を通して、国内外の優秀な研究者との交流ができます。

各種の支援制度

リサーチ・アシスタント制度、インターンシップ制度、授業料免除制度、学会発表やフィールドワークの旅費の援助など、充実した研究支援が受けられます。

指導体制

個別指導と共同指導を組み合わせたユニークな指導体制を採用しています。学生には正副2名の指導教員が指名され、入学から学位取得まで、日常的な指導をおこないます。一方、ゼミにおいては共同指導体制を取り入れています。ゼミは4名の教員が担当し、研究の内容だけでなく発表方法などに関する指導をおこないます。担当教員以外の教員にもゼミへの参加を求めることができます。

スケジュール

学生は1年次において1年生ゼミでの指導をもとにフィールドワーク（現地調査）の準備をおこない、2年次以降、指導教員の指導のもとに調査地にてフィールドワークをおこないます。そして調査終了後、指導教員による個別指導や論文ゼミでの共同指導を受けながら学位論文の完成をめざします。

専攻案内

地域文化学専攻

独創的な文化人類学・民族学を目指して

本専攻は、国立民族学博物館が基盤機関となり、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ及びオセアニアの諸地域に居住する人びとの文化と社会に関する教育研究を行っています。各々の地域の特性や歴史を考慮しながら、民族誌学的方法論に基づく文化と社会の記述、構造の解明、動態の把握を目指します。現地調査から得られたデータを分析し、理論化し、学術的な貢献と実践的な提言ができる人材を養成します。

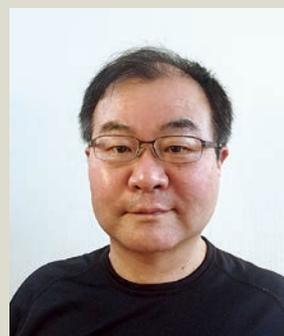


信田 敏宏 専攻長

比較文化学専攻

比較研究を通じて文化の諸現象を解明

本専攻は、比較社会、比較宗教、比較技術、比較言語、比較芸術、文化資源という6つの研究分野から構成されています。諸民族文化の比較研究により、各々に通底する普遍性の発見と理論的解明を目指します。基盤機関である国立民族学博物館の標本資料や映像音響資料、文献図書資料等を教育と研究に活かせることは本専攻の強みです。従来の文化人類学的研究方法に加えて、隣接諸科学の成果を導入し、新しい研究分野の開発を積極的に進めることができる人材を養成します。



鈴木 紀 専攻長

地域文化学専攻 (2021年度)

相島 葉月 准教授

① 社会人類学・イスラーム学・中東研究

- ② 現代エジプトにおける美と身体文化に関する社会人類学的研究
日本と中東に関する文化的知識のグローバルな流通について
- ③ モダニティ、都市中流層、マスメディア、教育、現代イスラーム思想、消費、様式美、独創性、知的伝統

伊藤 敦規 准教授

① アメリカ先住民研究・博物館人類学・知的財産問題の人類学的研究

- ② 人類学博物館のIndigenizationに関する研究
- ③ 米国先住民、博物館人類学

樫永 真佐夫 教授

① 東南アジア文化人類学

- ② 東南アジアの伝統的政治社会組織に関する歴史的研究
物質文化に焦点を当てた黒タイの民族誌的研究
ベトナムにおける国家と民族の関係に関する研究
- ③ 東南アジア大陸部、ベトナム、黒タイ、白タイ、タイ系言語集団、社会人類学

齋藤 晃 教授

① 歴史人類学・ラテンアメリカ研究

- ② 植民地期アンデスの先住民の総集住化に関する人文情報学的研究
南米ボリビア低地のモヘニョに関する歴史人類学的研究
- ③ ラテンアメリカ、アンデス、アマゾン、植民地時代、エスノヒストリー、先住民、キリスト教

島村 一平 准教授

① 文化人類学・モンゴル研究

- ② モンゴル仏教のグローバル実践に関する学際・国際的地域研究
モンゴル・ヒップホップに関する文化人類学的研究
モンゴル人の輪廻転生と死生観に関する研究
- ③ モンゴル、プリヤート、シャーマニズム、モンゴル仏教、エスニシティ、ナショナリズム、チンギスハーン表象、ヒップホップ

鈴木 英明 准教授

① 歴史学・インド洋海域史研究・アフリカ研究

- ② 19世紀を対象としたインド洋西海域世界の実態解明
20世紀前半のベルシア湾における拘束の実態解明・移動概念の学際的再検討
- ③ インド洋、海域世界、奴隷、奴隷廃止、移動

池谷 和信 教授 (2024年3月退任予定)

① 環境人類学・人文地理学・アフリカ研究・地球学

- ② 熱帯の狩猟採集文化、家畜飼育文化の変容に関する比較研究
南部アフリカにおける先住民運動に関する研究
地球環境史の構築に関する研究
- ③ 地球環境、狩猟採集民、アフリカ、東北アジア、サン(ブッシュマン)、ソマリ、チュクチ、日本、バングラデシュ、環境人類学、人文地理学

小野 林太郎 准教授

① 海洋考古学・東南アジア研究・オセアニア考古学

- ② 熱帯島嶼域における人類史や資源利用史に関する考古学研究
漁撈や海の利用にかかわる人類・考古学的研究
水中文化遺産を対象とした海洋考古学的研究
- ③ 東南アジア島嶼部、インドネシア、オセアニア、オーストロネシア語族、漁撈、水中文化遺産、人類学

川瀬 慈 准教授

① 映像人類学・民族誌映画

- ② エチオピアの音楽職能集団の人類学的研究
民族誌映画制作の理論と実践に関する研究
アフリカの無形文化の保護と継承に資する映像人類学研究
人類学研究にもとづく創作的な話法の探求
- ③ 映像人類学、民族誌映画、エチオピア、音楽職能、Ethio-Jazz、エスノフィクション、エスノポエティクス

齋藤 玲子 准教授

① アイヌ・北方先住民文化研究

- ② アイヌおよび隣接する民族における物と人の移動と交流
環北太平洋地域先住民の物質文化に関する比較研究
- ③ アイヌ、北海道、北アメリカ、物質文化、観光、博物館

新免 光比呂 教授 (2025年3月退任予定)

① 宗教学・東欧研究

- ② ファシズム運動における宗教的要因の比較研究
- ③ ルーマニア、ファシズム、レジオナル、キリスト教

奈良 雅史 准教授

① 文化人類学・中国研究

- ② 中国における宗教と少数民族をめぐる人類学的研究
宗教と移動をめぐる人類学的研究
- ③ 宗教実践、国家、自律性、公共性、移動、エスニシティ、ムスリム、回族

- ① 専門分野
- ② 現在の研究課題
- ③ 研究のキーワード

西尾 哲夫 教授 (2023年 3月退任予定)

① 言語人類学・アラブ研究

- ② グローバル化と中東地域の民衆文化に関する言語人類学的研究
多元的価値共創文学の可能性に関する物語情報学的研究
- ③ 中東、北アフリカ、アラビアンナイト、ナラトロジー

野林 厚志 教授

① 人類学・民族考古学・台湾研究・食文化研究

- ② 生業技術の通文化比較研究
食の多元的価値に関する人類学的研究
台湾におけるエスニシティの動態の探究
- ③ 生業文化、食文化、物質文化、狩猟技術、野生動物、家畜動物、狩猟農耕民、台湾原住民族、エスニシティ、文化資源

林 勲男 教授 (2022年 3月退任予定)

① 災害人類学・オセアニア民族誌資料コレクション研究・オセアニア研究

- ② 自然災害への対応に関する人類学的研究
オセアニアで収集された民族誌資料コレクションの研究
オセアニアにおけるキリスト教宣教師の活動に関する研究
- ③ 災害、復興、記憶、宣教師、博物学誌、民族誌資料コレクション、異文化表象、オセアニア

藤本 透子 准教授

① 文化人類学・中央アジア地域研究

- ② 中央アジアにおけるイスラーム実践の人類学的研究
カザフの伝統医療に関する研究
カザフの移動と社会再編に関する研究
- ③ 中央アジア、カザフスタン、ムスリム、宗教実践、伝統医療、社会再編、移動

三島 禎子 准教授

① 文化人類学・西アフリカ研究

- ② 国際移動に関する文化人類学的研究
- ③ 西アフリカ、セネガル、ソニンケ、商業民族、民族ネットワーク

森 明子 教授 (2023年 3月退任予定)

① 文化人類学・民族誌研究・ヨーロッパ人類学

- ② 人類学の記述とその社会的文脈
人類学的比較の再考
- ③ 社会的なもの、移民、ケア、場所、家族、都市、国家、EU

丹羽 典生 准教授

① 社会人類学・オセアニア地域研究

- ② オセアニアにおける紛争と少数民族に関する研究
応援に関する通文化比較
- ③ 宗教運動、紛争、開発、少数民族、応援

信田 敏宏 教授

① 社会人類学・東南アジア研究

- ② マレーシア先住民に関する人類学的研究
インクルーシブ社会に関する人類学的研究
- ③ 東南アジア、マレーシア、オラン・アスリ、日本、博物館、知的障害者

平井 京之介 教授

① 社会人類学・日本研究・東南アジア研究

- ② 水俣病被害者支援運動の人類学的研究
「負の遺産」の生成に関する博物館人類学的研究
タイのコミュニティ博物館についての人類学的研究
- ③ 日本、タイ、ラオス、経済人類学、社会運動、博物館、上座部仏教、水俣病

三尾 稔 教授

① 文化人類学・南アジア研究

- ② 南アジアにおける多様な宗教伝統の共生に関する研究
インドのナショナリズムと宗教の関係に関する研究
インドの大衆消費社会化と祭礼の変容に関する研究
- ③ ラージスターン州メーワール地方(インド)、グジャラート州(インド)、ヒンドゥー、ムスリム、文化人類学、宗教人類学、南アジア地域研究

南 真木人 教授

① 南アジア民族誌研究・文化人類学

- ② ネパール地震後の社会再編に関する研究
ネパール社会の30年間の変化に関する研究—1982年撮影番組の再資源化
- ③ ネパール地震、災害民族誌、包摂、社会再編、映像人類学、当事者コミュニティ、研究資源の共有化、ガンダルバ(楽師カースト)

山中 由里子 教授

① 比較文学比較文化

- ② 中東およびヨーロッパにおける驚異譚の比較文学的研究
驚異と怪異の比較研究
アレクサンドロス伝承の東西伝播
- ③ 西アジア、アラブ文学、ペルシア文学、博物学、想像界、イラン、ユーラシア交渉史

比較文化学専攻 (2021年度)

飯田 卓 教授

- ① 生態人類学・文化遺産の人類学・視覚メディアの人類学
- ② マダガスカルにおける漁民文化と漁撈技術
アフリカにおける文化遺産とコミュニティの相互影響
日本人類学の発達における大衆メディアの役割
- ③ インド洋、アフリカ大陸、日本、人類学史、文化遺産実践、大衆アカデミズム、情報と知

卯田 宗平 准教授

- ① 環境民俗学・東アジア研究
- ② 動物と人間とのかわりをめぐる民俗学的研究
- ③ 自然と人間、動物利用、リバランス論、鶉飼文化、トナカイ飼養、物質文化、技術と技能

太田 心平 准教授

- ① 社会文化人類学・北東アジア研究・博物館組織行動論
- ② 韓国・朝鮮社会における文化の統合性と多様性の研究
労働現場としての博物館における組織行動と動機付け
- ③ 韓国・朝鮮、近代性、社会的記憶、物語論、世代集団、知識生成、博物館

韓 敏 教授

- ① 社会人類学・中国研究
- ② 歴史記憶と象徴に関する人類学的研究
- ③ 社会主義近代化、中国、文化遺産、観光、文化表象、記憶、聖地巡礼、英雄崇拜、漢族、シボ族

笹原 亮二 教授 (2025年3月退任予定)

- ① 民俗学・民俗芸能研究
- ② モノの遺存の総体的把握を通じた生活文化に関する民俗学的研究
- ③ 日本、民俗学、三匹獅子舞、民俗芸能

鈴木 七美 教授 (2023年3月退任予定)

- ① 歴史人類学・医療人類学・エイジング研究
- ② 超高齢社会のエイジングフレンドリー・コミュニティ
キルトドキュメンテーション活動——アーミッシュキルトから考える
- ③ エイジング・イン・プレイス、米国宗教コミュニティ、アーミッシュキルト

上羽 陽子 准教授

- ① 民族芸術学・染織研究・手工芸研究
- ② 現代インドの手工芸文化に関する民族芸術学的研究
- ③ 民族芸術学、手工芸文化、染織研究、インド、伝統的技術

宇田川 妙子 教授 (2025年3月退任予定)

- ① 南ヨーロッパ研究・性研究
- ② イタリアおよび地中海ヨーロッパの民族誌的研究
ジェンダー／セクシュアリティに関する文化人類学的研究
社会理論の批判的再考
- ③ イタリア、地中海ヨーロッパ、イタリア人、文化人類学、ジェンダー／セクシュアリティ研究、南ヨーロッパ研究、性研究

岡田 恵美 准教授

- ① 音楽民族学・南アジア研究
- ② 南アジアのマイノリティにおける音楽文化
伝統ポリフォニー歌唱の記録保存と教育資源化
- ③ インド、マイノリティ、山岳民族、ポリフォニー、音楽文化、伝承、楽器改良

菊澤 律子 教授

- ① 言語学・オーストロネシア諸語・言語研究における地理情報システム(GIS)の利用
- ② オーストロネシア諸語における統語構造の変遷
言語データを軸としたオセアニアの先史に関する学際研究
手話言語と音声言語の対照研究
- ③ オセアニア、フィジー、オーストロネシア、記述言語学、比較(歴史)言語学、比較(歴史)統語論、先史言語学、手話言語学

菅瀬 晶子 准教授

- ① 文化人類学・中東地域研究
- ② パレスチナ・イスラエルを中心とした東地中海アラブ地域で、一神教徒が共有する聖者崇敬の研究
イスラエルにおけるアラブ市民を中心とした、マイノリティによる文化表象のありかた
- ③ 中東、東地中海、パレスチナ、イスラエル、キリスト教徒、マイノリティ、アイデンティティ、エスニシティ、文化表象、共存

鈴木 紀 教授 (2025年3月退任予定)

- ① 開発人類学・ラテンアメリカ文化論
- ② 開発援助プロジェクトの人類学的評価法
博物館における先住民族文化表象
- ③ ラテンアメリカ、メキシコ、ユカタン、開発援助、フェアトレード、博物館展示学

- ① 専門分野
- ② 現在の研究課題
- ③ 研究のキーワード

關 雄二 教授 (2022年 3月退任予定)

① アンデス考古学・ラテンアメリカ研究

- ② 古代アンデス文明における権力の発生に関する研究
ペルーにおける世界文化遺産概念と国家・地域の文化遺産概念との相互作用に関する研究
- ③ ペルー、ラテンアメリカ、メスティソ、アンデス考古学、文化人類学

寺村 裕史 准教授

① 情報考古学・文化情報学

- ② 情報考古学的手法を用いた文化資料のデジタル化と情報統合に関する研究
- ③ GIS(地理情報システム)、考古学、情報科学

廣瀬 浩二郎 准教授

① 日本宗教史・民俗学

- ② 障害者文化に関する人類学的研究
日本近代の新宗教に関する歴史的研究
- ③ 日本、東北、九州、京都、歴史、宗教、福祉、文化

ピーター J. マシウス 教授 (2025年 3月退任予定)

① 先史学・民族植物学

- ② History of agriculture and plant domestication, with specific interests in taro (*Colocasia esculenta*), paper mulberry (*Broussonetia papyrifera*), and other plants used for food, fodder and fibre
- ③ Asia, Pacific, Mediterranean, ethnobotany, ethnobiology, plant domestication, food history

丸川 雄三 准教授

① 文化財情報発信・連想情報学

- ② 連想情報学に基づく文化財情報発信に関する研究
- ③ 文化財、連想検索、デジタルアーカイブ

吉田 憲司 教授 (国立民族学博物館長)

① 博物館人類学・アフリカ研究

- ② アフリカにおける造形と儀礼の人類学的研究
博物館・美術館における文化の表象のあり方の研究
- ③ アフリカ、ヨーロッパ、日本

園田 直子 教授 (2024年 3月退任予定)

① 保存科学

- ② 博物館における持続可能な資料管理に関する研究
資料の展示・保存環境に関する研究
収蔵庫の再編成に関する研究
- ③ 保存科学、総合的有害生物管理 (IPM)、博物館環境

日高 真吾 教授

① 保存科学・保存修復

- ② 地域文化の保存と活用に関する研究
博物館における保存処理法の研究
- ③ 日本、保存科学、保存処理

福岡 正太 教授

① 民族音楽学・東南アジア研究

- ② 映像音響メディアとインドネシア音楽の変容
伝統芸能の伝承と映像記録
- ③ インドネシア (スンダ)、東南アジア、映像音響メディア、民族音楽学

松尾 瑞穂 准教授

① 文化人類学・ジェンダー医療人類学・南アジア研究

- ② 近代化、開発がもたらすリプロダクション実践の変容に関する研究
サブスタンスと身体研究
子育ての比較文化論
- ③ リプロダクション (性と生殖)、ジェンダー、インド、サブスタンス、身体

吉岡 乾 准教授

① 言語学・南アジア研究

- ② 北パキスタン諸言語の記述言語学的研究
- ③ ブルジャスキー語、ドマーキ語、カティ語、カラーシャ語、記述言語学、パキスタン、カラコラム山脈、ヒンドゥークシ山脈

博士後期課程 (Ph.D.)

課程修了の要件、学位取得までの流れ

学位取得の要件

学位を取得するためには、所定の3年限以上在学し、必要な研究指導を受けた上で、所定の単位数以上を修得し、博士論文の審査及び試験に合格すること（課程博士）が必要です。

学位取得までの流れ

1年次	1年生ゼミ出席
	現地調査準備
	調査計画書提出
2年次前期以降	現地調査
	調査報告、博士論文構想発表
3年次	必須履修単位取得
	博士論文草稿発表
3年次後期以降	課程博士出願
	論文公開発表会・口述試験
	最終試験・合否決定
	学位授与



研究支援

■ リサーチ・アシスタント (RA) 制度

教員の指示・監督の下で、研究者の補助として、研究活動に必要な様々な業務をおこないながら給与を得ることができます。

■ 学生派遣事業

学位申請論文作成に不可欠な国内外の調査や学会での成果発表に要する旅費、宿泊費などの支援をおこないます。

■ SOKENDAI 研究派遣プログラム

高い専門性と広い視野、国際通用性をそなえた研究者の育成を目的として、国内外の大学、研究機関、企業等における共同研究活動や調査活動等に必要な経費を支援する制度です。

■ 入学料・授業料免除等制度

経済的理由により入学料や授業料の納入が困難な学生に対する経済的支援として、入学料・授業料の免除（収納猶予）の制度があります。授業料免除については、毎年2回、授業料免除申請の受付をおこなっています。授業料免除許可者は、半期の授業料の全額もしくは半額が免除されます。

■ 特別講義

外部研究資金調達のための申請書の書き方、論文投稿のしかたなどをテーマにした特別講義をおこなっています。

■ 日本学術振興会「特別研究員 (DC 2)」採用数

年 度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
採用数	3	3	4	2	1	2	2	2	2	4	0	2	2	1

地域文化学専攻

川上 香

私は、南アルプス周辺山村の畑作と作物の変遷について研究しています。焼畑農業に関心があり、焼畑が衰退した昭和30年代から現代までに作物がどのように集約されていったのか、また、多数の近代品種が栽培されているにもかかわらず在来作物が今でも栽培されているのはなぜか、その理由を明らかにしたいと考えています。このため、季節ごとの農作業の参与観察を断続的に長期間行いたいと希望していました。専攻では、学生派遣事業という制度があり、研究計画の中で必要なフィールドワークに対する経済的支援を受けることができます。直近の調査では、PCR検査費用に対しても専攻から支援をいただき、インフォーマントに不安を与えることなく調査を続けることができました。

2020年は感染症の拡大で大学院に足を運ぶことが難しい中、リモートでのゼミ参加と講義を経験しました。通常、専攻のゼミは自身の主指導、副指導の2名の先生と、分野の違う4名の先生方、院生が一堂に会して行われます。今回はパソコンの画面を介して質疑や意見を交わす形となりました。また、履修した講義は、論文11本(!)についてリモート講義を受け、レポートを提出して添削、解説していただくという贅沢なスタイルで進められました。私は長野県の山村に暮らしていますが、ゼミも講義も自宅に居ながら参加することができ、充実した学びの時間だったと感じています。

最後に、私は社会人を30年近く経験してから進学しました。経済的に続けられるのか、そして博士論文が本当に書けるのか、入学当初は迷いと不安だらけでした。しかし、今では「何とかなる!」と考えられるようになりました。ご指導いただいている先生方やサポートして下さる事務の皆さん、図書室の皆さん、院生の皆さんにはとても感謝しています。



もと焼畑だった茶畑の茶摘み準備
(静岡市、2021年)

ウユニンガ

私は、中国国内においてラクダを最も多く飼育し、「ラクダの故郷」と呼ばれる内モンゴル自治区アラシャー盟を調査地とし、ラクダを放牧しながら生活をしているモンゴル族を対象に、彼らの放牧技術や物質文化などを明らかにする研究を続けています。修士課程では、当該地域における古老たちの口承伝承や口述史などを収集し、その中で、ラクダに関する語りが非常に多いことを明らかにしました。博士課程では、すでに収集した資料や現地調査を通して、ラクダ牧畜民の放牧生活やラクダとの関わりを描写した民族誌を作成することを研究目的にしています。

日本に留学し、総研大（みんぱく）に進学したきっかけは、2015年、内モンゴル大学の修士課程2年生の時に、みんぱくを見学したことにあります。当時、みんぱくに収蔵されていたモンゴルに関する書籍や総研大の先生方らの研究成果、梅棹忠夫先生の収集した資料、モンゴルに関する展示、標本などが印象深く、非常に魅力的なものでした。

総研大（みんぱく）には、人類学・民族学、考古学など異なる研究分野の研究者が大勢集まっており、それぞれの専門分野の視点からコメントやアドバイスをいただくこともでき、非常にオープンな雰囲気があります。加えて、館内外の研究者から構成された共同研究会や国際研究会、講演に参加することも可能であり、素晴らしい研究環境が揃っています。

また、総研大には学生に対する様々な支援があり、私は、中国における予備調査を実施する際には、専攻が実施する『学生派遣事業』を利用することができました。また投稿論文や学会発表の日本語文章の添削支援もあり、留学生としては非常に安心です。さらに、総研大には学外の助成金に関する情報も豊富であり、私は指導教員の指導や事務サポートのおかげで、海外調査助成金を獲得することができ、長期調査の実施につながっています。院生の研究室には、自由に使える多くの機材やソフトウェアが用意されており、院生にとっては非常に恵まれた環境と言えます。



2歳ラクダの毛刈り作業と焼印押し
(中国内モンゴル自治区アラシャー盟、2021年)

【課程博士】

ケニア沿岸部の零細漁業者による水産資源の利用に関する生態人類学的研究 —かご漁を事例として—	田村 卓也(比較)	[2021.3.24 文学]
Formation of Music of Kazakh Diaspora in Mongolia :A Case Study of the Musical Practices of Professional Performers	八木 風輝(比較)	[2021.3.24 文学]
ベトナムのモンの二元論における諸存在の制作と構成 —「常世」と「現世」の関係に着目して—	今井 彬暁(地域)	[2020.9.28 文学]
オイラド・モンゴルにおける口頭伝承とアイデンティティー—故郷創出物語から—	查 斯 查 干(地域)	[2020.3.24 文学]
中国都市部の家庭の食生活に関する歴史民族誌 —社会主義制度下(1949-2018年)の天津市の事例—	劉 征宇(比較)	[2020.3.24 文学]
神戸南京町50年の民族誌的研究—包摂的チャイナタウンの生成と変容—	辺 清音(比較)	[2020.3.24 文学]
中国新疆オイラドの宗教復興に関する人類学的研究 —寺とオワール祭祀の復活に関わる転生活仏シャリワン・ゲゲン14世—	那 木 加 甫(地域)	[2019.3.22 学術]
中国青海省におけるチベット仏教復興運動下の民間信仰の変容に関する人類学的研究 —同仁県ワッコル村を事例として—	喬 旦 加 布(地域)	[2018.3.23 文学]
近代フィリピンにおける民族衣装をまとった聖母像の研究	古沢ゆりあ(比較)	[2017.9.28 文学]
自然資源の利用に関する環境人類学的研究 —ニカラグアの先住民による商業的ウミガメ漁の事例—	高木 仁(地域)	[2017.3.24 文学]
スナックにおける言語コミュニケーション研究 —対人関係を調節する接客言語ストラテジー—	中田 梓音(比較)	[2016.9.28 文学]
日本社会の自然葬に関する民族誌的研究 —NPO法人「葬送の自由をすすめる会」を中心に—	金セッピール(地域)	[2016.3.24 文学]
都市回族コミュニティの維持と宗教実践 —中国陝西省西安市における回族の帰属意識をめぐる民族誌的研究—	今中 崇文(地域)	[2016.3.24 文学]
韓国の地域社会における華僑のアイデンティティに関する民族誌的研究 —韓国華僑ビジネスと華僑協会を中心に—	金 桂淵(地域)	[2015.9.28 文学]
「野球移民」を生み出す人びと—ドミニカ共和国におけるトランスナショナル移民研究—	窪田 暁(比較)	[2015.3.24 文学]
モンゴル遊牧民のモノの情報をめぐる交渉に関する民族誌	堀田あゆみ(地域)	[2015.3.24 学術]
中国雲南省における徳宏タイ族の即興うたと感性の民族誌的研究	伊藤 悟(地域)	[2014.9.29 文学]
My Huaca: The Use of Archaeological Heritage in Modern Peru from a Public-Archaeology Perspective	サウセド・セガミ・ ダニエル・ダンテ(比較)	[2014.9.29 文学]
ナイジェリアの都市イレ・イフェにおける「アーティスト」の民族誌的研究	緒方しらべ(比較)	[2014.3.20 文学]
変化しつつける装い—中国雲南省文山モンの自己と他者をめぐる人類学的服飾研究—	宮脇 千絵(地域)	[2012.9.28 文学]
現代アンデス農村における聖人信仰の変容—人の移動に焦点をあてて—	八木百合子(比較)	[2012.9.28 文学]
無文字社会における歴史記憶の生成と継承 —南エチオピア牧畜民ボラナにおける口承史の分析をとおして—	大場 千景(地域)	[2012.3.23 文学]
カオダイ教ハノイ聖室の民族誌的研究 —ベトナム北部地域の都市における女性たちの社会関係—	伊藤まり子(地域)	[2012.3.23 文学]
周辺イスラームのダイナミズム —タイ南部村落におけるイスラーム復興運動と宗教実践の変容—	小河 久志(地域)	[2012.3.23 文学]
ヨーグルトをめぐる言説の生成と展開 —社会主義期からポスト社会主義期にかけてのブルガリアを中心に—	マリア・ヨトヴァ(比較)	[2011.9.30 文学]
オーストラリア先住民ヨルタ・ヨルタの環境管理のための先住民運動に関する文化人類学的研究	友永 雄吾(地域)	[2011.3.24 文学]
現代タイ社会における開発と僧侶 —僧侶による社会貢献とネットワーク形成に焦点をあてて—	岡部真由美(地域)	[2011.3.24 文学]
現代東南中国における宗親会の民族誌的研究—国家との関係を中心として—	陳 夏哈(比較)	[2011.3.24 文学]
農業技術改善の民俗誌—紀ノ川下流域村落の一七～二〇世紀前半における動向の分析—	加藤 幸治(比較)	[2010.9.30 文学]
日本の先史時代における植物性食料の加工と利用—残存デンプン分析法の理論と応用—	渋谷 綾子(比較)	[2010.3.24 文学]

韓国における老人の食 —老人福祉施設を中心に—	守屋亜記子(地域)	[2009.3.24 文学]
インド農村社会における不妊経験の人類学的研究	松尾 瑞穂(比較)	[2008.9.30 文学]
フェラインの民族誌 —ドイツ・バイエルン州のローカル・アソシエーション—	山田 香織(地域)	[2008.3.19 文学]
水上人と呼ばれる人々 —広東珠江デルタの漢族エスニシティとその変容—	長沼さやか(地域)	[2008.3.19 文学]
在米コリアンのサンフランシスコ日本町 —マルチカルチャーのエスニックタウン—	小谷 幸子(比較)	[2008.3.19 文学]
参加型開発を通じた女性の自己変容過程に関する人類学的研究 —北インド農村社会を事例として—	菅野美佐子(比較)	[2007.9.28 文学]
「場」と「パフォーマンス」に関する人類学的研究 —トルコ・都市におけるアレヴィーのセマーを例として—	米山 知子(比較)	[2007.9.28 文学]
上ビルマ村落における宗教とジェンダーに関する人類学的研究	飯國有佳子(地域)	[2007.3.23 文学]
「護り」の身体技法に関する映像人類学研究 —インドネシア・ミナンカバウの事例から—	村尾 静二(比較)	[2007.3.23 文学]
離散と故郷 —ヨルダンのパレスチナ系住民にみられる帰属意識とナショナリズム—	錦田 愛子(地域)	[2007.3.23 文学]
「子ども域」の文化人類学的研究 —バングラデシュ農村社会の子ども—	南出 和余(比較)	[2007.3.23 文学]

【論文博士】

都市環境における関係性を巡る実践としての精霊憑依 —マリの首都におけるソンガイ移民の精霊憑依に関する人類学的研究—	内田 修一	[2021.3.24 学術]
グローバル化する互酬性 —サモア世界の儀礼財の循環と首長制—	山本 真鳥	[2017.3.24 文学]
ベトナムにおける市場経済化の進展と地域文化の生成 —東北地方のヌン・アン集団の事例から—	チュ・スワン・ザオ	[2015.9.28 文学]
アイヌ衣文化の研究	津田 命子	[2014.9.29 学術]
先住民生存捕鯨再考 —国際捕鯨委員会における議論とベクウェイ島の事例を中心に—	濱口 尚	[2013.9.27 文学]
多文化都市・新宿の生成と展開 —ライフサイクルの視座—	川村千鶴子	[2013.3.22 学術]
先史アンデス形成期の社会動態 —ペルー北部ワンカバンバ川流域社会における社会成員の活動と戦略から—	山本 睦	[2012.9.28 文学]
小集落から見た初期国家の形成過程 —先スペイン期中央アンデスのワリ国家を事例として—	土井 正樹	[2012.3.23 文学]
スリランカにおけるエステート・タミルのアイデンティティと 「ジャーティヤ」をめぐる人類学的研究	鈴木 晋介	[2011.3.24 文学]
活用される職祖伝承 —近・現代日本における木工挽物の担い手と木地屋「根元地」—	木村 裕樹	[2010.9.30 文学]
先住民学習の理論と実践—ポストコロニアル人類学の活用—	中山 京子	[2010.9.30 学術]
シャーマニズムによるエスニシティの探求 —ポスト社会主義期におけるモンゴル・ブリアートの事例を中心として—	島村 一平	[2010.3.24 文学]
国際線客室乗務員の接客業務と勤務体制 —仕事の人類学的研究—	八巻 恵子	[2009.9.30 文学]
「アイヌ風俗画」の研究 —近世北海道におけるアイヌと美術	新明 英仁	[2007.9.28 文学]

年度別学位授与者数

		'91~ '07年	'08年	'09年	'10年	'11年	'12年	'13年	'14年	'15年	'16年	'17年	'18年	'19年	'20年	計
地域文化学専攻	課程博士	25	1	0	2	3	1	0	2	3	1	1	1	1	1	42
	論文博士	13	0	1	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	1	19
比較文化学専攻	課程博士	18	1	1	2	1	1	1	2	0	1	1	0	2	2	33
	論文博士	7	0	1	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	14
計		63	2	3	7	5	4	2	5	4	3	2	1	3	4	108

よくある質問

Q 学部をもつ大学院の教育と比べてどんな特徴がありますか？

A 教員数が学生数をうわまわるという、他大学にはない恵まれた教育環境があげられます。教員：学生の比率はおおよそ3：2であり、個々の資質やニーズに合わせた、きめの細かい指導が可能です。また教員は各分野の第一線で活躍する研究者であり、最新の研究動向に基づいた指導をおこなえます。さらに、民博が所蔵する豊富な研究資料（図書68万冊、標本資料34万5千点、映像音響資料7万点など）の利用、館が主催する多くの共同研究会・シンポジウムへの参加を通し、国内外の研究者との交流ができます。

Q 地域文化学専攻と比較文化学専攻の二専攻には、どのような違いがありますか？

A 地域と比較に別れているものの、共にフィールドワークを研究の根幹においているため、共通する部分も多く、密接な相互交流があります。また、専攻間に指導上の棲み分けはなく、院生がどちらに所属していても、両専攻の教員の指導を受けることができます。

Q 二専攻で学ぶことができるのは、文化人類学・民族学だけでしょうか？

A そんなことはありません。両専攻には、考古学、民俗学、宗教学、芸術学、言語学、音楽学、博物館学、保存科学など幅広い分野を専門とする教員がそろっていますから、それらの分野でも研究をおこなうことができます。また、教員の陣容は年度によって変化することがありますから、希望研究内容と当該専攻の教育体制との整合性について不明な点がある方は、前もってご相談ください。

Q 受験する前に希望する指導教員をかならず決めておく必要がありますか？

A 必要条件ではありませんが、強くお勧めします。また、受験を申請する前に希望指導教員に連絡を取れば、入学後の研究の見通しを立てる一助となるでしょう。

Q 学部や修士課程で文化人類学・民族学を専攻しなかったのですが、
受験はできますか？

A 正規に文化人類学・民族学を学んだ経験がなくても受験はできます。しかし、入学後に志望研究が遂行可能であるか見通しをつけるためにも、関連図書などを精読し、少なくとも人類学やフィールドワークに関する基本的な考え方について理解しておくほうがよいでしょう。これは、何をするために当専攻を受験するのか整理するためにも役立つはずです。

Q できるだけ早く学位を取得したいのですが、
3年で取得するのは難しいでしょうか？

A フィールドワークを研究の中心に据えている分野であるため、3年間で学位を取得するのは容易ではありません。早い取得が望ましいことは言うまでもありませんが、学問の進展に寄与できる質の高い研究成果を上げ、最終学位である博士号に相応しい研究能力を養うことがより重要であり、この点に留意した指導がおこなわれています。

Q 修士課程ですでに現地調査をはじめているのですが、
入学後すぐに長期の現地調査をすることは可能ですか？

A 原則として、初年度は、長期フィールドワークをおこなうための準備期間にあてられています。フィールドワークは、単に現地に行けば遂行できるものではありません。また、修士課程でフィールドワークをすでにおこなっている場合でも、博士論文執筆のための調査では、求められる調査の質に大きな差があることが多いのです。入学後の一年間は、教員の指導のもと、調査計画の実現性・妥当性などについて、それまでの自己の研究成果や先行研究との関連に留意しながら検討します。年度末には、フィールドワークに向けたリサーチプロポーザルに関する発表をおこない、計画をより実現性の高いものへと練っていきます。

▼ その他の質問はこちら

<https://www.minpaku.ac.jp/education/university/information/faq>



修了生の声

京都市文化財保護課 文化財保護技師（民俗文化財担当）

今中 崇文（2016年3月学位取得）

総研大の地域文化学専攻・比較文化学専攻が設置されている国立民族学博物館は、日本でも有数の文化人類学・民族学の研究センターです。学部から修士課程まで東洋史学専攻に在籍していた私は、中国のイスラムを信仰する少数民族、回族の日常的な宗教実践やコミュニティについて関心を持ち、その解明にはフィールドワークが不可欠になることから、ここならば十分な指導を受けられるのではないかと考え、総研大に進学しました。

実際、総研大在籍中には、フィールドワークを実施するための多種多様なサポートを受けることができました。先生方からの指導・助言はもちろんのこと、院生同士で交換されるフィールドワークの情報も大いに役立ちました。総研大の研究支援制度を利用し、追加調査の費用をまかなわせてもらったこともあります。デジタルカメラやレコーダーといった機器も借り出すことができます。

民博には、文化人類学・民族学だけでなく、民俗学

や考古学、博物館学、保存科学など、幅広い分野の先生方が在籍されています。そこに集う学生もさまざまな分野の出身者で構成されており、ゼミや講義は言うに及ばず、学生同士で繰り広げられる議論も多岐にわたります。さらには、民博が主催する共同研究会やシンポジウムなどに参加させてもらい、国内外のさまざまな分野の専門家と直接交流することが可能です。現在、私は民俗文化財担当の文化財保護技師として、京都市内の有形・無形民俗文化財の保護に携わっていますが、しばしば思わぬところで、民博での耳学問で得られた知識が役に立っています。

自らの研究を深めるとともに、その幅を広めるためにも、総研大・民博はこれ以上ない環境といえます。貪欲に活用していただきたいと思えます。



中国青海民族大学 准教授

喬旦加布（2018年3月学位取得）

私は2009年4月に中国・青海省から私費留学生として日本にきました。留学前は、青海師範大学で、チベット語チベット文学を専攻しました。留学後は、北海道大学に3年6ヶ月間在籍し、修士課程で初めて文化人類学を専攻しました。そして、総研大地域文化学専攻に進学しました。日本での生活は9年間ほどになります。

私の場合、出身村の伝統文化に関心を持ち、自分とは何か、人間とは何かという文化人類学の視点で自身の出自に関わる歴史や文化などを研究したいと考えました。博士課程の研究テーマは、主に近年のチベットアムド地域の青海省一帯で見られるチベット仏教の復興運動と民間信仰の変容にかかわる問題で、青海省黄南藏族自治州同仁県ワョツコル村の事例から、それら宗教にかかわる変化の実態を考察しました。

総研大地域文化学専攻の基盤機関である国立民族学博物館は、多言語による世界各地の民族学・文化人類学、民族誌、地方誌などに関する文献、映像、音声、標本資料を多く収蔵しており、世界でも有数の研究機関であると言っても過言ではありません。また、多岐にわたって民族学・文化人類学の最先端で活躍されて

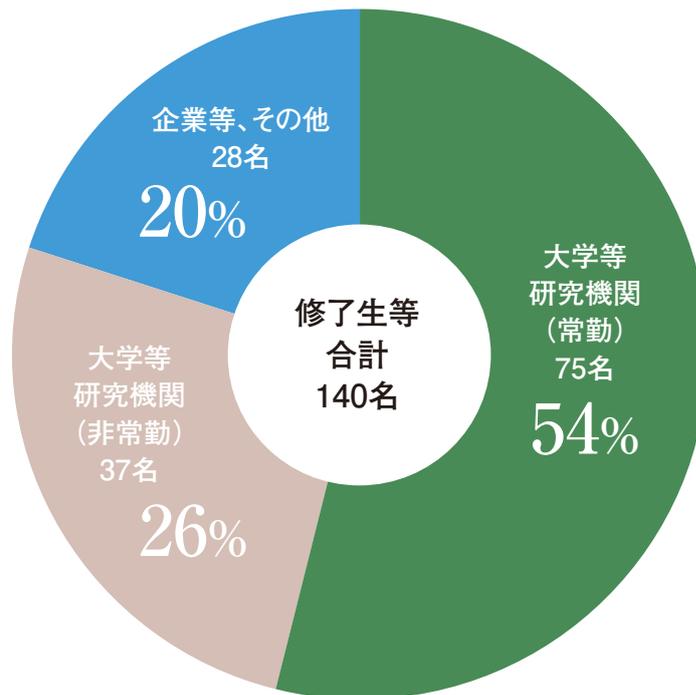
いる研究者が在籍し、大学院生に対して一対一の丁寧な研究指導を行っている点も魅力です。さらに、国内外におけるフィールド調査に対するサポート体制と学術振興会、その他の助成金の申請、雑誌への投稿に至るまで、指導も充実しています。また、一般の大学より研究会や国際シンポジウムなどが頻繁に行われ、大学院生でも研究発表を行う機会も多く、自分が目指す研究にとって最高の条件が備わっていたと思います。

現在、私は中国青海民族大学の准教授として主に大学院生に対して、人類学の理論や方法論に関する知識を教えながら、大学の民族博物館の展示にも携わっています。いま考えると民博で学んできた知識が大いに役に立っており、これから総研大の地域文化学専攻へ受験を希望する後輩の皆さんには是非とも豊かな研究環境を活用して欲しいと思っています。



修了生等の進路

修了生等の進路 (2021年7月)



大学等研究機関(常勤)勤務先

青山学院大学、愛知淑徳大学、愛媛大学、大阪大学、神奈川大学、金沢星陵大学、鹿児島純心女子大学、川崎医療福祉大学、関西外国語大学、神田外語大学、京都大学、京都精華大学、京都文教大学、京都外国語大学、県立広島大学、神戸大学、神戸市外国語大学、神戸山手大学、神戸女学院大学、芝浦工業大学、四天王寺国際仏教大学、静岡大学、静岡文化芸術大学、滋賀県立近代美術館、女子栄養大学、清泉女学院、就実大学、成蹊大学、大東文化大学、中部大学、中京大学、筑波大学、東京大学、東京外国語大学、東北学院大学、東洋大学、帝京大学、長崎純心大学、奈良県立大学、南山大学、日本赤十字九州国際看護大学、日本大学、阪南大学、広島市立大学、宮崎公立大学、山形大学、龍谷大学、立命館大学、上海師範大学、インドネシア学術総局、ライデン大学(オランダ)、ソウル大学(韓国)、青海民族大学蔵学院(中国)、中国社会科学院(中国)、国立民族学博物館、国立歴史民俗博物館、総合地球環境学研究所

■ 入学者選抜の基本的な考え方

第一次選抜（書類審査）では、修士論文または他の学術論文等について、独創性、研究史の把握、実証性、論理性の各項目に基づき評価します。また、研究内容（研究活動の概要、これまでに行った研究の要旨、これから志望する研究）については、計画の妥当性、計画の具体性、学問的意義、発展性の各項目に基づき評価します。

第二次選抜（面接審査）では、これまでに行った研究、修士論文等の内容、これから志望する研究に関する口頭試問を通し、討論能力、語学力、研究意欲等を評価します。

書類審査、面接審査の各項目を総合的に判断し、合否を判定します。

■ 求める学生像

【地域文化学専攻】

- ・世界の多様な地域の文化について深い関心を抱き、とりわけ文化人類学・民族学の基礎研究に強い意欲をもって、在学中の研究活動を遂行できる学生
- ・研究対象地域の文化に関するデータ収集のための調査に必要な方法論上の基礎知識と基礎的語学力を備え、在学中に調査を遂行できる学生
- ・特定地域を横断または包摂するような超域的な文化動態を広い視点から調査研究する意欲をもつ学生
- ・世界の多様な地域の人びとが直面する現代的課題に積極的に関与しようとする意欲をもつ学生
- ・学術論文の十分な読解力と基礎的な執筆力を備える学生

【比較文化学専攻】

- ・人類の諸文化について広い関心を抱き、とりわけ学問的理論化やその社会的応用に強い意欲をもって、在学中の研究活動を遂行できる学生
- ・研究対象とする文化に関するデータ収集のための調査に必要な方法論上の基礎知識と基礎的語学力を備え、在学中に調査を遂行できる学生
- ・文化人類学・民族学のみならず隣接諸科学にも強い関心をもち、横断的・学際的な領域を切り開こうとする意欲をもつ学生
- ・複雑化するグローバルな現代社会の諸課題に積極的に関与しようとする意欲をもつ学生
- ・学術論文の十分な読解力と基礎的な執筆力を備える学生



■ 募集人数

専攻	課程の種類	講座（分野）	募集人員
地域文化学専攻	博士課程の後期 3年の課程	アジア地域文化Ⅰ、アジア地域文化Ⅱ、 ヨーロッパ地域文化、アフリカ地域文化、 アメリカ地域文化、オセアニア地域文化	3人
比較文化学専攻		比較社会研究、比較宗教研究、比較技術 研究、比較言語研究、比較芸術研究、文 化資源研究	3人

■ 入学者選抜日程

出願資格認定審査 修士または専門職学位に相当する学力のある方は、事 前に出願資格認定審査を行います	2021年11月1日（月） ～2021年11月4日（木）
入学願書受付期間	2021年11月25日（木） ～2021年12月1日（水）
第一次選抜（書類選考）・結果通知	2022年1月中旬
第二次選抜（面接審査）	2022年1月24日（月） ※予備日1月25日（火）
合格発表	2月中旬
入学手続き	3月中旬

▼ 出願書類および出願までの流れ等についてはこちら

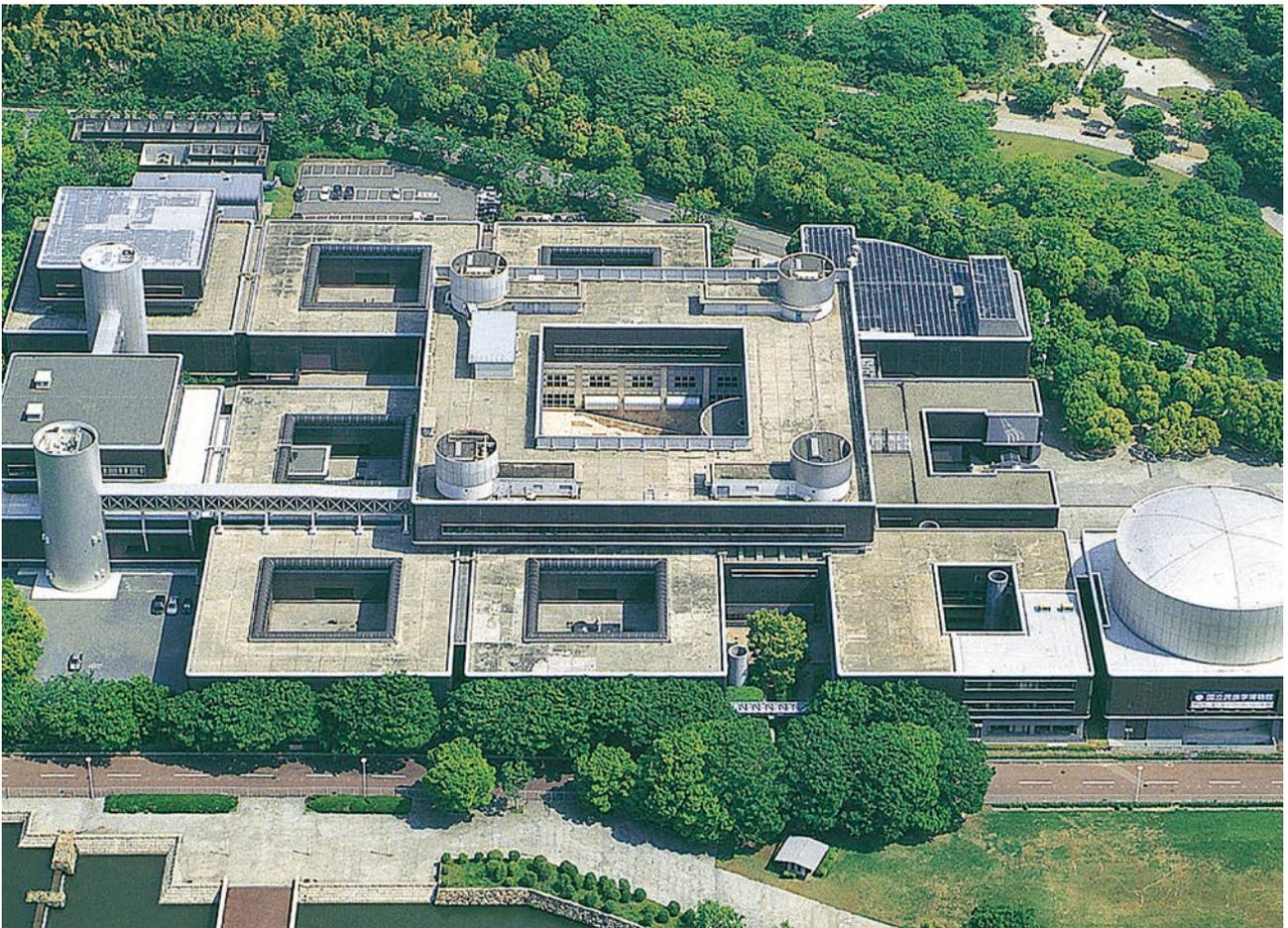
<https://www.minpaku.ac.jp/education/university/information/steps>



国立民族学博物館の概要

国立民族学博物館（みんぱく）は、わが国における文化人類学・民族学の研究センターとして、世界の諸民族の社会や文化に関する調査研究をおこなうとともに、異なる文化についての人びとの理解を深めることを目的として、1974年に設立されました。みんぱくは、大学共同利用機関であり、全国の大学・研究機関との連携をもとに調査研究や共同研究を進めるとともに、学術情報を集積しています。その成果を博物館の展示やデータベースの提供などを通じて広く社会に公開することも使命としています。

みんぱくは「博物館機能をそなえた研究所」として、世界的にみても類例のない規模と機能を有しています。博物館そのものをとっても、すでに世界最大級の民族学博物館に数えられるようになってきました。みんぱくの展示は、常設展示と特別展示と企画展示とで構成されており、常設展示は、世界をオセアニア、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、それに日本を含むアジア各地に分けた地域展示と、言語や音楽などの通文化展示からなっています。一方、特別展示と企画展示は、特定のテーマのもとに、年に数回、期間を限って開催されます。



所蔵民族学資料 (2021年3月31日現在)

【標本資料】

海外資料	179,264点
国内資料	165,879点
計	345,143点

【映像音響資料】

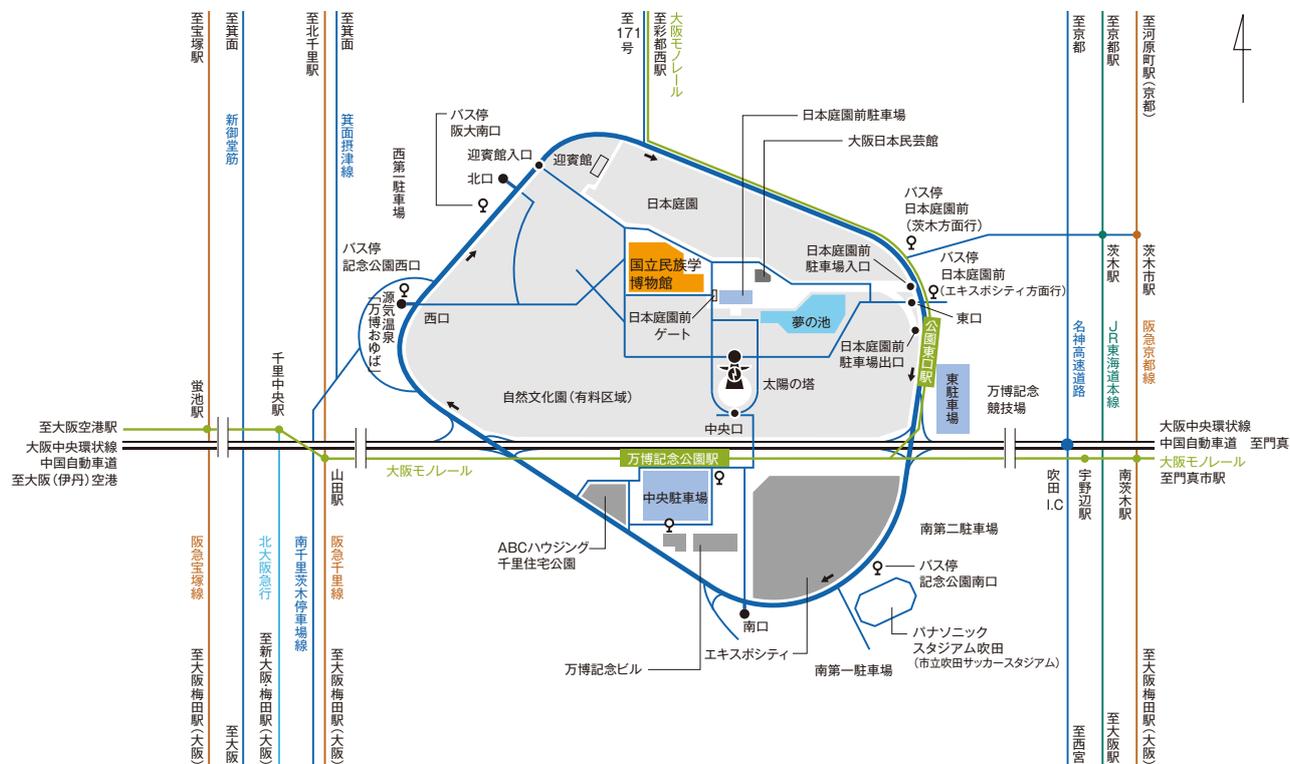
映像資料	8,277点
音響資料	64,421点
計	72,698点

【文献図書資料】

日本語図書	270,428冊
外国語図書	415,855冊
計	686,283冊
日本語雑誌	10,162点
外国語雑誌	7,070点
計	17,232点



みんなくアクセス



- 大阪モノレール……「万博記念公園駅」、「公園東口駅」下車徒歩約15分
 - バス(近鉄バス)……阪急茨木市駅・JR茨木駅から「日本庭園前」下車徒歩約13分
阪急茨木市駅から約20分、JR茨木駅から約10分
 - 乗用車……万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分
- ※万博記念公園各ゲートで、国立民族学博物館の観覧券をお買い求めください。
同園内を無料で通行できます。
※万博記念公園をご利用になる場合は、同園入園料が必要です。

[お問い合わせ]

国立民族学博物館 管理部研究協力課研究協力係 (大学院担当)

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1

電話 06-6878-8236 (大学院担当)

FAX 06-6878-8479

E-mail souken@minpaku.ac.jp

URL <https://www.minpaku.ac.jp/>

<https://www.minpaku.ac.jp/education/university>

